

協議会だより

道南技術士協議会

平成15年度 第6、7、8回勉強会を開催して

1. はじめに

道南技術士協議会では、CPD対策の一環として、様々なテーマを題材に勉強会を開催しております。

今回は、平成15年度第6、7、8回勉強会の様子について報告させていただきます。

2. 第6回勉強会（船上から見る函館港）

日時：平成15年8月22日 13：30～15：30

場所：函館港、函館漁港、函館港湾建設事務所

講師：函館港湾建設事務所 北原繁志技術士

参加：14名

函館港は1793年に外国船の初入港、1859年に長崎、横浜と共に、我が国最初の貿易港として開港した歴史ある港です。

今回は、船上からの函館港を、北原技術士の説明により、見学することができました。



写真-1 船上で説明を受ける（北原技術士）

特に、近代土木の父として有名な廣井勇博士が手掛けた函館漁港を海側から実際に見ることができ、当時の技術水準の高さ（丁寧さ）を肌で実感することができました。

この函館漁港は、土木（海洋）遺産としての価値が認められ、水産庁を中心として保存、活用策が計画されているところです。

また、函館ドックで活躍された澁谷技術士からは、当時の防波堤工事についての苦労話などが披露され、一同、港に対する認識を新たにしました。

函館港湾建設事務所で行われた意見交換会では、函館港の港勢や今後の課題などの話題提供がなされました。

3. 第7回勉強会（北海道立工業技術センター）

日時：平成15年9月26日 15：00～17：00

場所：北海道立工業技術センター

講師：同センター起業化推進室長 加賀壽博士

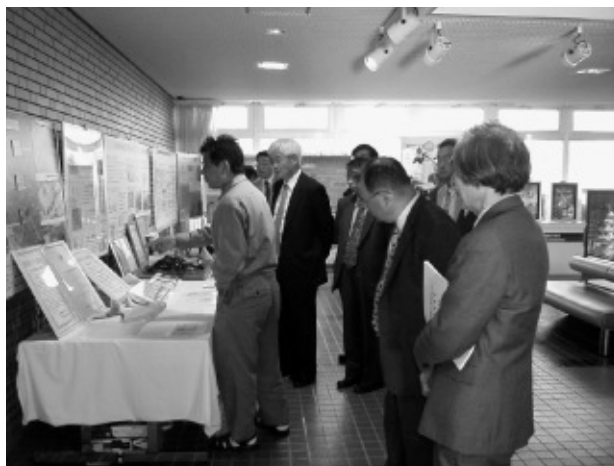
参加：12名

北海道立工業技術センターは、テクノポリス法による、地域指定を受け開設された、テクノポリス函館の中核的研究施設で、現在は函館地域振興財団により運営されております。

今回は、センターの業務内容と地域の関わり、特に起業化を中心に、起業化推進室長である加賀壽博士より説明を受けました。

同センターでは、起業化・事業化の支援として、共同研究・受託研究、補助金申請支援、コーディネート（産学官間のビジネスプラン作成支援）等を実施しております。

その成果例として、日本水産学会技術賞を受賞した釣り餌の開発、海外進出した綿アメ自動販売機、高齢化社会に適応した弱握力者用手すり、グッドデザイン賞を受賞した新型藻場礁および船釣り用オモリ等多数の例が紹介されました。



写真－２ 開発された商品の説明を受ける（加賀博士）

また、センターでは技術の切り口だけの支援では限界と考え、ビジネスプラン作成スクールを開校し、さらなる企業支援を図っております。

今後は、センターを中心として産学官の連携を強化し、地域産業の活性化を図るべく、活動を展開していく計画などが紹介されました。

４．第８回勉強会（ニューマチックケーソン見学）

日時：平成 15 年 10 月 21 日 13：00～17：00

場所：函館江差自動車道 茂辺地高架橋

講師：函館開発建設部函館道路事務所 別宮課長

参加：16 名

函館江差自動車道は、道南圏の交通の時間短縮効果による地場産業の活性化、社会・経済の可能性の拡大、道南地方の地域連携軸としての機能が期待されている路線です。

今回は、茂辺地川と丘陵地形に挟まれた狭隘な部分に高架橋の下部工を設置する工事現場の説明を、函館開発建設部の別宮課長より受けました。

この現場では、フーチング形式による杭基礎とすると河川断面を減少することとなることや、後背斜面を大きくすると橋梁長を延長することとなるため、経済比較によりニューマチックケーソンを採用することとなりました。

ニューマチックケーソン工法とは、鉄筋コンクリート製の函体（ケーソン）を地上で作ри、なかの土砂を掘り出しながら、函体の重さで固い地盤まで沈めて橋脚の基礎を作ります。この時に、圧縮空気

を送りこんで地下水の浸入を防ぎながら行う工法です。

土木工事であるものの、内部の土砂掘削は、ケーソンの沈下量を 24 時間計測し、ミリ単位で施工する様は、驚きでした。

また、機械室内には、ニューマチックケーソンの要ともいべきコンプレッサーが、予想外の静かな音で稼働しており、万が一に備えた潜水病対策のレシーバータンクが作業の困難さを伝えておりました。



写真－３ 機械室前で説明を受ける（別宮課長）

５．おわりに

平成 15 年度の CPD 研修会も、昨年度にまして回を重ねることができました。

講演を引き受けて頂いた講師の皆様、会場を提供頂きました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

さらに、「道南技術士協議会の CPD 研修会は頑張っている」というエールも、大きな研修会継続の原動力となっております。

函館では、「函館・国際水産・海洋都市構想」という新たなまちづくりを進めております。

歴史と観光のまち函館に、新たな息吹を吹き込む取り組みを、産学官挙げて盛り立てていくためには、扇の要が必要です。

今こそ技術士の役割が問われる時期と考え、会員一同努力する所存ですので、読者の皆様にも応援よろしくお願い致します。

（文責：道南技術士協議会 福田 厚武）